

【 まちの将来像6 】

心がけから行動へ
みんなで創る環境にやさしいまち

令和3年度施策評価

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-1	いごちの良い生活環境をたもつ
3	対応するSDGs		
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	大気・水環境等の環境監視による環境の把握に努めるとともに、事業者に対する指導や公共下水道・公設浄化槽の整備による環境の保全対策を進めます。また、環境美化や路上喫煙防止などについての意識啓発を進め、市民一人ひとりのマナーが向上し、いごちの良い生活環境を保ちます。	
5	評価者等	部 名	補職名・課名
		評価者(部長級)	産業環境部 部 長 松本 栄子
		施策主担当課	産業環境部 環境政策課 —
		施策関係課	市民生活相談課、資源循環課、環境事業課、下水道総務課、下水道施設課
6	施策内の取組	6-1-1	健康に過ごすことができる生活環境の保全
		6-1-2	新たな環境課題への対応
		6-1-3	快適環境の保全

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
2	評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R3年度末現在の施策の主な課題
	公害苦情件数については、騒音に起因するものが多い為、特定建設作業届出受理時に、騒音対策の配慮を周知しているところ。下水道等事業については、令和3年度実績として、水洗化促進のため公共下水道区域で5件及び公設浄化槽区域で1件の助成金支給を行い、公共下水道として約2.6haの供用開始を行い、人口普及率が向上しました。また、下水道ストックマネジメント計画に基づき、人孔鉄蓋を34か所交換しました。 化学物質の排出量は多くの事業所で横ばいまたは減少傾向です。また、耐震化による大規模災害時の化学物質流出リスク低減の進捗状況把握のため、立入確認等を行いました。 ライフサイエンス系施設設置に伴う環境保全協定は全ての施設で締結しています。また、ライフサイエンス系施設に定期的な立入を行い、施設が適正に管理されていることを確認しました。 環境美化意識高揚のため、広報誌や啓発看板により市民等に周知・啓発を行うとともに、いばらき環境フェア2021において啓発動画を作成し、YouTubeによる配信を行いました。不法屋外広告物の撤去をはじめとする美化活動については、令和2年6月末の不法屋外広告物等撤去対策協議会解散に伴い、引き続き市が実施しています。 不法投棄については、警察と連携した不法投棄防止パトロールを行うなど、その抑止に努め、快適な生活環境の保全に向けた取組を進めています。また、路上喫煙防止やペットの糞尿に対する苦情、不法投棄防止については、ホームページやSNS、広報誌等活用し、新しい生活様式に適合した啓発方法を検討する等の取組を推進します。 以上、公共下水道の水洗化、所有者不明猫の避妊・去勢手術補助件数の向上及び不法投棄収集量の低下があるものの、公害苦情件数の増加が見られることから、「B」評価とします。		課題① 供用開始率100%をめざし、総合的かつ計画的に整備を進める必要があります。また、公設浄化槽の設置を促進する必要があります。
			課題② 下水道ストックマネジメント計画に基づき、下水道施設の長寿命化を進めていますが、年度間における事業費の平準化を図るため、施設の健全度把握を行う必要があります。
			課題③ 化学物質の排出量削減等に向けて事業所指導を継続して行う必要があります。ライフサイエンス系施設の設置により周辺環境に影響が及ばないよう、適正な管理運営に向けての事業所指導を継続して行う必要があります。
			課題④ 路上喫煙率は減少しているものの下げ止まりの傾向にあり引き続き啓発に取り組む必要があります。ごみ屋敷については、近隣住民に対する衛生上、防災上支障が生じており解消に向け取組を推進する必要があります。
			課題⑤ 広報誌・懸垂幕による周知や看板による啓発を継続し環境美化意識とモラルの向上を図る必要があります。不法投棄などが後を絶たないことから継続して啓発し、一人でも多くの市民の環境美化意識を高める必要があります。

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-1	いごちの良き生活環境をたもつ

3 施策内の取組の評価

1	取組	6-1-1	健康に過ごすことができる生活環境の保全				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子	
3	関係課	下水道総務課、下水道施設課					
4	目標 (後期基本計画より)	大気、水等の環境が良好な状態で維持されています。 事業活動に伴う排水や生活排水が適正に処理されています。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	生活環境の状況については、概ね環境基準を達成しています。公害苦情件数については、コロナ禍での事業活動が縮小から緩和に向かったことも要因の一つではありますが増加しています。苦情件数として騒音に起因するものが多い為、重機を用いた解体工事等で提出される届出受理時に、対策を徹底周知していく必要があります。下水道等事業については、令和3年度実績として、水洗化促進のため公共下水道区域で5件及び公設浄化槽区域で1件の助成金支給を行い、公共下水道として約2.6haの供用開始を行いました。また、下水道ストックマネジメント計画に基づき、人孔鉄蓋を34か所交換しました。以上、公共下水道人口普及率が向上しましたが、公害苦情件数が増加していることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
		一般環境における騒音の環境基準達成率	%	↗	94	97	90(R5)
公害苦情の件数	件	↘	23	44	20(R5)		
公共下水道の人口普及率	%	↗	99.43	99.44	99.5(R5)		

1	取組	6-1-2	新たな環境課題への対応				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	化学物質を取り扱う事業所では使用の低減と適正管理が行われ、ライフサイエンス系施設では環境保全協定が守られ、周辺環境が良好な状態で維持されています。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	化学物質の排出量は多くの事業所で横ばいまたは下降気味です。また、耐震化による大規模災害時の化学物質流出リスク低減の進捗状況把握の確認等を行いました。 ライフサイエンス系施設設置に伴う環境保全協定は全ての施設で締結しています。 また、ライフサイエンス系施設に定期的な立入を行い、施設が適正に管理されていることを確認しました。 以上、化学物質排出量は減少傾向であるが、さらなる削減が必要であることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
		事業所における化学物質排出量(R元年度450トン)	トン	↘	437	集計中	前年度未満(各年度)
環境保全協定の締結率	%	→	100	100	100(各年度)		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-1	いごこちの良い生活環境をたもつ

1	取組	6-1-3	快適環境の保全				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	市民生活相談課	課長名	多田 明世
3	関係課	環境政策課、資源循環課、環境事業課					
4	目標 (後期基本計画より)	モラル・マナーの向上で快適な生活環境が保たれています。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	環境美化意識高揚のため、広報誌や啓発看板により市民等に周知・啓発を行うとともに、環境フェアでは啓発動画を作成し、YouTube配信を行いました。不法屋外広告物の撤去をはじめとする美化活動については、不法屋外広告物等撤去対策協議会解散以降も市が実施し、不法投棄についても警察と連携した不法投棄防止パトロールを実施しています。また、路上喫煙防止やペットの糞尿等に対する苦情などについても、ホームページやSNS、広報誌等活用して啓発を行うなど、概ね順調に進行していますが、市民との連携や啓発方法について状況の変化に合わせて対応するなど、今後も継続して粘り強く啓発の推進に努める必要があることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
		路上喫煙率	%	→	0.114	0.162	0.2(R4)
所有者不明猫の避妊・去勢手術補助件数	匹	↗	145	232	240(R4)		
不法投棄収集量	kg	↘	236,420	157,740	180,000(R4)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、コロナ禍においても継続して取組を進め、その成果が概ねあがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・取組6-1-3の市民との連携については、環境美化意識高揚には市による市民等への啓発では限界があり、市民対象だけでなく、活動的な市民が多い茨木市であるからこそ、市民を主体とした活動支援の記述や、さらなる支援の検討など、さまざまなチャンネルを駆使した対応に期待したい。

令和3年度施策評価

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	みどりを育む取組や生態系への配慮を推進するとともに、身近な「まちの緑」「農地」「里山」「水辺」を保全し、自然とふれあう機会の創出に取り組み、人の生活と自然とのバランスのとれた自然環境を創ります。			
5	評価者等	部 名	補職名・課名		
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	松本 栄子
		施策主担当課	産業環境部	農林課	—
		施策関係課	環境政策課、公園緑地課、下水道施設課		
6	施策内の取組	6-2-1	都市とみどりの共存		
		6-2-2	自然資源の利用の推進		
		6-2-3	生物多様性の保全		

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>
2	評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R3年度末現在の施策の主な課題
	<p>遊休農地については、国の定義が変更されたことに加え、農地中間管理機構等を通じた新たな担い手の確保や、農業委員会とも連携した取組により、遊休農地面積を1.7haにまで縮小できました。また、エコ農産物栽培を推進し、約13.3haの圃場で栽培支援を行いました。</p> <p>里山保全につきましては、森林ボランティアの育成を図るための森林サポーター養成講座は、コロナ禍の影響で新たな受講者はいませんでしたが、直近5年間では76名が修了され、卒業生の多くが森林保全ボランティアとして活動をされています。また、里山センターを運営し市民参加型の里山保全を推進しました。森林整備につきましては林業団体が行う森林整備に対し支援を行いました。</p> <p>市民が生物多様性に興味を持つきっかけを提供するとともに、環境資源補完調査の調査員を養成するための講座を5回開催しました。環境資源補完調査については4回行い、市内の生物多様性の現状を調べました。8月には新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン上において、いばらきの生きもの博を開催して市内の自然や生きものに関する紹介を行うとともに、生物多様性関係の講座等への参加を促しました。また、平成29年度作成の生きもの発見ガイドブックを家庭等で身近な生きものを観察する際に活用いただくため、小学校3年生に配付しました。これらにより、生きものや自然に触れ合う機会の創出を行いました。</p> <p>以上、里山保全の森林ボランティアの育成について、コロナ禍により講座の開講ができず実績値が0となりましたが、オンライン化の推進等、不測の事態に対する取組の強化を図っており、全体として事業が推進していることから「B」評価としました。</p>		課題① 地産地消を通じた、安全・安心な農産物の供給を促進するため、環境に配慮した農業を推進する必要があります。
			課題② 森林保全ボランティアの高齢化や人員不足により、活動能力が低下しており、新たなボランティアの確保が必要です。
			課題③ 生物多様性への理解と価値観の共有を継続的に促すため、既存の講座や企画展示、啓発物を効果的に関連させるなどして、取組を一過性のものにならないための様々な仕掛けが必要です。
			課題④
			課題⑤

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる

3 施策内の取組の評価

1	取組	6-2-1	都市とみどりの共存				
2	主担当課	部名	建設部	課名	公園緑地課	課長名 岡田 直司	
3	関係課	環境政策課、下水道施設課					
4	目標 (後期基本計画より)	市民や事業者・団体が、みどりの必要性を認識し、緑化活動や水辺の保全が進んでいます。また、公園や水辺は、市民で賑わっています。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	緑化推進において市民が主体となる花と緑の街角づくり推進事業や民有地緑化助成事業については安定した事業展開が行えています。一方で相談会や講習会についてはコロナ禍の影響で実施回数が不安定なもの、実施ごとの参加人数は増加傾向にあり緑化技術や知識についての市民ニーズの高まりが確認できます。 数値目標については微増傾向にありますが目標値には至っておらず、今後も継続した周知・啓発が必要なことから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
		花と緑の街角づくり推進事業の参加者数	人	↗	1,828	1,856	1,900(R3)
民有地緑化助成事業の補助件数	件	↗	3	4	6(R3)		
緑の相談・緑の勉強会の参加者数	人	↗	123	133	300(R3)		

1	取組	6-2-2	自然資源の利用の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	農林課	課長名 谷田 明夫	
3	関係課	環境政策課					
4	目標 (後期基本計画より)	美しい里地・里山が保全され、環境に配慮した農地の活用が進んでいます。また、間伐材などの有効利用が多方面で進んでいます。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		C	里山保全について森林サポーター養成講座を開講し5年間で76名が修了、卒業生の多くが森林保全ボランティアとして活動しています。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大により開講できず実績値が0となっていますが、リモート講座等オンラインの活用を図るなど取組を進めます。また、里山センターを拠点とした市民参加型の里山保全を推進し、林業団体が行う森林整備に対し支援を行いました。遊休農地については、国の定義が変更されたことに加え、農地中間管理機構等を通じた新たな担い手の確保や、農業委員会とも連携した取組により、遊休農地面積を1.7haにまで縮小しました。また、エコ農産物栽培を推進し、約13.3haの圃場で栽培支援を行いました。森林サポーター養成講座受講者数の実績値が0のため「c」評価としましたが、オンラインの活用等、不測の事態への対策を図っております。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
		森林サポーター養成講座受講者数	人	↗	14	0	25(各年度)
エコ農産物栽培面積	ha	↗	11	13	12(R3)		
遊休農地面積	ha	↘	8	1.7	1.5(R3)		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる

1	取組	6-2-3	生物多様性の保全				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子	
3	関係課	農林課、公園緑地課					
4	目標 (後期基本計画より)	生きものや自然とふれあう機会が増えています。 多様な生きものが生息・生育できる環境が整っています。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民が生物多様性に興味を持つきっかけを提供するとともに、環境資源補完調査の調査員を養成するための講座を5回開催しました。環境資源補完調査については4回行い、市内の生物多様性の現状を調べました。8月には新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン上において、いばらきの生きもの博を開催して市内の自然や生きものに関する紹介を行うとともに、生物多様性関係の講座等への参加を促しました。また、平成29年度作成の生きもの発見ガイドブックを、家庭等で身近な生きものを観察する際などに活用いただくため、小学校3年生に配付しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ 以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、今後、様々な市域の生きものや自然にふれあう機会の創出が必要であることから「b」評価とします。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
	生きものや自然に関する学習機会の提供回数	回	↗	23	26	30(R3)	
	生きものや自然に関する学習機会への参加者数	人	↗	3,912	4,988	4,000(R3)	

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<p>・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、コロナ禍においても工夫された取組を進め、その成果が概ねあがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考え。</p> <p>・取組6-2-3について、後期基本計画の目標である「生き物や自然とふれあう機会が増えている」ことについては取組より把握できるが、同時に「多様な生きものが生息・生育できる環境が整っています」に関する変化や取組についても記述し、環境と接触機会の両面の連携などを進めると、より包括的な取組につながると考える。</p>

令和3年度施策評価

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-3	ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	市が率先して省エネルギー対策を行うとともに、市民や事業者と連携して、再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギーの推進に努めます。また、情報交換の場を通じて様々な主体が連携し、新たな取組の輪を広げ、ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざします。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	松本 栄子
		施策主担当課	産業環境部	環境政策課	-
		施策関係課	総務課、危機管理課、建設管理課		
6	施策内の取組	6-3-1	省エネルギーの実践及び普及啓発		
		6-3-2	再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入促進		

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R3年度末現在の施策の主な課題			
2	<p>市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量は、数値の把握に数年かかり、現時点で把握可能な平成29年度までの状況は減少傾向にあります。</p> <p>環境イベントの参加者数については一定数で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえ、今後はオンライン形式も含め、様々な開催方法を充実するよう努めていく必要があります。</p> <p>エコポイント制度は、年間を通じて市総合アプリにおいて電子化されたエコポイントの付与や景品申込を行い、利便性を向上させました。</p> <p>再生可能エネルギー導入の累計件数は、住宅用太陽光発電システム等の導入補助制度の実施により、緩やかに増加している状況です。令和3年度は半導体の入手困難が続いたことなどにより、補助件数が前年度より減少しています。</p> <p>総務課所管の公用車について、低公害車を導入することで、ガソリン等の燃料使用料を削減し、省エネルギーの実践に努めています。また、燃料電池自動車MIRAI1台の寄付を受け、公用車として運用を開始しました。</p> <p>市管理街路灯のLED化については、97%であることから一定の成果はあったと考えます。</p> <p>以上のことから、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。</p> <p>「A」評価とするには、庁舎の省エネルギー化や市民の皆さまに対する普及啓発といった脱炭素化に資する取組を強化し、なおいっそう温室効果ガス排出量を削減する必要があります。</p>		課題①	エコポイント制度は、認知度を上げ、参加する市民を増やしていく必要があり、スマートフォンアプリによる電子化など、制度の利便性向上などを検討していく必要があります。	
			課題②	学校現場における環境教育の現状把握を行った結果、各教科の授業と連携した体験型の環境教育が効果的であることが確認され、教員と連携しながら環境教育を実施していく必要があります。	
			課題③	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、市民の皆さまに参加いただく事業を実施する必要があります。	
			課題④	公共施設も含め、設置可能な場所に再生可能エネルギー設備を導入していく必要があります。	
			課題⑤	市管理街路灯のLED化については、引き続き修繕にてLED灯具への更新を実施し、LED化100%をめざしていく必要があります。	

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-3	ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす

3 施策内の取組の評価

1	取組	6-3-1	省エネルギーの実践及び普及啓発				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	市民等の環境に関する意識が高まり、省エネルギーの実践が進んでいます。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量は、数値の把握に数年かかるため現時点で評価することは困難ですが、排出量は減少傾向にあります。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面での環境イベントを中止したことによりイベント参加者数については減少しました。環境フェアをオンライン開催としましたが、実効性のある情報交換の場づくりをめざし、事業者や市内大学、教育機関等に出展いただき関係性の構築に努めました。エコポイント制度は、年間を通じて市総合アプリにおいて電子化されたエコポイントの付与や景品申込を行い、利便性を向上させました。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、今後もオンライン開催も含め、コロナ禍における取組をさらに進める必要があるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量(把握している直近2か年の実績値を記載)	t	↘	4.67(H30)	4.31(R01)	4.08(R12)		
環境イベント等各種普及啓発事業への参加者数	人	↗	3,400	4,385	4,000(R3)		

1	取組	6-3-2	再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入促進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子	
3	関係課	総務課、危機管理課、建設管理課					
4	目標 (後期基本計画より)	化石燃料に依存しない、再生可能エネルギーの導入により、低炭素な暮らしや事業活動の普及が進んでいます。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	再生可能エネルギー導入の累計件数は、住宅用太陽光発電システム等の導入補助制度の実施により、緩やかに増加している状況です。令和3年度は半導体の入手困難が続いたことなどにより、補助件数が前年度より減少しています。総務課所管の公用車について、低公害車を導入することで、ガソリン等の燃料使用料を削減し、省エネルギーの実践に努めています。また、燃料電池自動車MIRAI1台の寄付を受け、公用車として運用を開始しました。市管理街路灯のLED化については、97%であることから一定の成果はあったと考えます。これらの取組は一定進んでいます。脱炭素社会となるにはなおいっそうの取組が必要なことから、「b」評価としています。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
再生可能エネルギー導入件数(累計)	件	↗	5,900	6,600	6,000(R4)		
市管理街路灯のLED化率	%	↗	96	97	100(R2)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、コロナ禍においてもオンラインを活用した取組を進め、その成果が概ねあがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・取組6-3-1におけるイベント実施について、コロナ禍に伴い参加形態や連携主体の多様化が図られており取組が進んでいると考えられるが、特にオンライン実施では従来のイベントと比べて参加者層が異なることから、今後も取り入れる可能性があるのであれば、新たに獲得できた参加者層への効果的な内容なども検討いただきたい。 ・取組6-3-1におけるエコポイントについて、市民の環境意識に関わる重要な取組であり、今後の利便性の向上に期待している。一方、どの程度の付与や申込、可能であればアクティブ・ユーザー数などの具体的な成果があれば普及啓発の指標になるものと思われる。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	資源の循環とごみの減量化を図るため、新たな分別品目の追加検討を行うとともに、市民等への意識啓発に努めるほか、処理施設については、広域処理に向けて計画的に長寿命化工事に取り組みます。 また、市民、事業者は、ごみの発生抑制、再資源化に努め、きちんとした分別で資源の循環を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	松本 栄子
		施策主担当課	産業環境部	資源循環課	-
		施策関係課	環境事業課		
6	施策内の取組	6-4-1	減量化の推進		
		6-4-2	再資源化の推進		
		6-4-3	適正処理の推進		

2 令和3年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由(R3年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R3年度末現在の施策の主な課題			
2	家庭系ごみについては、広報誌・ホームページ・SNS・ごみ分別アプリ等による積極的な啓発に努めるとともに、マイボトル推進のため市内に給水サーバーのモデル設置を継続したほか、市民の自発的なごみの減量活動を促進するため、生ごみ処理容器等の購入助成やフードドライブを実施し、減量に向けた取組を進めた結果、排出量は国や府に比べ低水準を維持しております。また、再資源化については、分別収集を進めるとともに小型家電や水銀使用製品の回収ボックスの設置などにより取組を進め、再生資源集団回収報奨金事業の周知による市民の自発的な行動促進も行いました。 事業系ごみについては、事業所訪問による指導、啓発パンフレットの新規作成と市内3,000の事業所への配布等により啓発に努めることで減量と再資源化に取り組みました。また、環境衛生センターに搬入されるごみを検査し、不適正廃棄物については持ち帰り等を指示しました。適正処理については、収集車両の火災防止のため、中身の残ったスプレー缶等を職員が直接受け取るスポット収集を定期的の実施し、ごみ処理施設の運営については適宜必要な補修を実施して適正管理を進めるとともにバイオマス燃料を活用した効率的かつ安定的な運営に取り組みました。広域処理については、相手方である摂津市と「循環型社会の形成に係る広域連携推進会議」において受託事務の内容について協議を進めました。また、令和2年度に策定した災害廃棄物処理計画に基づき市民向けに「大きな災害時の災害廃棄物ハンドブック」を作成し広報6月号と同時配布しました。 以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に進行していますが、海洋プラスチックごみ問題や溶融処理による温室効果ガス発生抑制等の課題を含め、ごみの中でも多くを占める食品ロスの削減や、プラスチックごみの削減と資源循環をさらに推進する必要があるため、総合評価は「B」とします。		課題①	家庭系ごみ及び事業系ごみの減量化に関して、コロナ禍においても、一般廃棄物処理基本計画の目標達成に向け、食品ロスやプラスチックごみの削減等の課題解決のため、さらなる取組が必要です。	
			課題②	家庭系ごみ及び事業系ごみの再資源化に関して、コロナ禍においても、一般廃棄物処理基本計画の目標達成に向け、プラスチックごみの資源循環等の課題解決のため、さらなる取組が必要です。	
			課題③	基幹的設備改良工事や場内整備を進めていく必要があります。	
			課題④	令和5年度を目途とする摂津市とのごみの広域処理(事務の委託)の開始に向け、事務の委託の範囲・管理・執行の方法や本市環境衛生センター搬入時における諸課題等について、協議を行う必要があります。	
			課題⑤	災害廃棄物処理計画にあげられた平時の取組を中心に、事業を推進していく必要があります。	

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる

3 施策内の取組の評価

1	取組	6-4-1	減量化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	資源循環課	課長名 村上 泰司	
3	関係課	環境事業課					
4	目標 (後期基本計画より)	家庭系ごみや事業系ごみが減少しています。 不適正ごみの搬入を未然に防ぎ、ごみの減量・適正化が図られています。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	家庭系ごみについては、広報誌・ホームページ・アプリ等による積極的な啓発に努めました。また、マイボトル持参を推進する給水サーバー設置、自発的なごみの減量活動を促進する生ごみ処理容器等の購入助成やフードドライブの実施により、排出量は国や府に比べ低水準を維持しております。事業系ごみについては、事業所への訪問指導、啓発パンフレットの配布、環境衛生センターへの不適正廃棄物搬入検査等により減量の推進に努めましたが、新型コロナウイルスの影響による事業停滞からの回復基調がみられたことから、排出量は前年度より増加しております。以上のように概ね順調に進行しておりますが、さらにごみの削減と資源循環を推進する必要があるため、総合評価は「b」とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
	市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量(資源物を除く)	g/人・日	↓	447	441	392 (R7)	
	事業系ごみ年間排出量	t	↓	43,843	45,068	44,266 (R7)	

1	取組	6-4-2	再資源化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	資源循環課	課長名 村上 泰司	
3	関係課	環境事業課					
4	目標 (後期基本計画より)	家庭や事業所のごみが、きちんと分別されています。 ごみの資源化率が上昇しています。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	家庭から排出される資源物については、分別収集を進めるとともに小型家電や水銀使用製品の回収ボックスを設置し再資源化と環境負荷低減に努めました。また、再生資源集団回収報奨金事業の周知により、市民の自発的な行動を促進しました。事業所から排出される資源物については、事業所訪問による指導、啓発パンフレットの新規作成と市内3,000の事業所への配布等により啓発に努め、事業者の積極的な行動を促進しました。 以上のように、施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、さらに再資源化への取組を推進する必要があるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
	資源物回収量	t	↗	11,652	11,660	15,171 (R7)	

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる

1	取組	6-4-3	適正処理の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境事業課	課長名 中村 誠二	
3	関係課	資源循環課					
4	目標 (後期基本計画より)	ごみが適正に分別収集され、資源の循環が進んでいます。 ごみの効率的な処理に努め、ランニングコストの抑制が図れています。					
5	R3年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R3年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	収集車両の火災防止のため、中身の残ったスプレー缶等を職員が直接受け取るスポット収集を定期的に行いました。ごみ処理施設の運営については適宜必要な補修を実施して適正管理を進めるとともに、バイオマス燃料を活用した効率的かつ安定的な運営に取り組みました。広域処理については、相手方である摂津市と「循環型社会の形成に係る広域連携推進会議」において受託事務の内容について協議を進めました。また、令和2年度に策定した災害廃棄物処理計画に基づき市民向けに「大きな災害時の災害廃棄物ハンドブック」を作成し広報6月号と同時配布しました。以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、引き続き効率的な施設運営に努め経費を抑制する必要があることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R2年度	R3年度	
	市民一人当たりの収集経費	円	→	5,566	5,489	5,600(R3)	
	市民一人当たりの処分経費	円	→	6,845	7,435	6,500(R3)	

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> 「施策の現状と課題」において現状認識が概ね適切になされており、一定の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 家庭系ごみの排出量などは、コロナ禍に関わる生活様式や国の施策(レジ袋の有料化など)により全体的に変化することから、全国もしくは大阪府などにおける排出量の傾向を含めて成果を示す(全国の傾向と同様に減量が鈍化しているなど)ことができればより現状がより明確になると思われる。 取組6-4-2について、様々な啓発が行われ取組が進んでいることがわかるが、最も重要な「事業者の積極的な行動を促進しました」の具体的な中身がわかるように記述されると取組成果が明確になると思われるので、今後検討いただきたい。